

【取組の概要】

地形条件によっては、津波や土砂災害により道路が寸断され、車両による輸送が不可能となる場合が想定され、その場合の有力な輸送手段がヘリコプターです。支援物資の輸送や重傷者の搬送に非常に有効です。孤立が懸念される集落・地域について、ヘリポート整備の検討が必要です。

【計画、整備にあたっての着眼点・留意点】

○整備する場所

- ・ヘリポートの計画・整備を行うためには、整備の目的、使用の想定（救助優先、救援主体等）及びまち全体の状況を踏まえて規模や適地を選定し、アクセス道路を含めた配置計画を立案します。
- ・ヘリポートは、一般的に公共用ヘリポート（常設）、非公共用ヘリポート（常設）、飛行場外離着陸場（臨時）に大別できます。また、飛行場外離着陸場のうち、通常の離着陸場のほか、防災対応離着陸場（捜索、救助時）があるため、整備する施設を明確にする必要があります。
- ・実際にヘリコプターを管理している各県の消防航空隊や自衛隊等の協力を得て、適地選定や配置計画等の計画・整備することが重要です。限られた土地の中での選定にあたっては、小中学校のグラウンド等を臨時ヘリポートとして活用を検討することも重要です。

○整備の工夫

- ・ヘリポートの整備にあたっては、建設工事やダム・河川の浚渫工事において発生した残土・浚渫土を利用することも検討材料の一つといえます。
- ・ヘリコプターの離発着時の砂埃対策は、芝張りが効果的です。
- ・災害発生時、ヘリポートが避難場所となり、復旧・支援の支障とならないよう、日頃から自家用車等の進入禁止を徹底しておく必要があります。

◆参考資料

- ・消防防災ヘリコプターの効果的な活用に関する検討会（総務省消防庁、平成21年3月）

5 災害に強いまちづくり計画

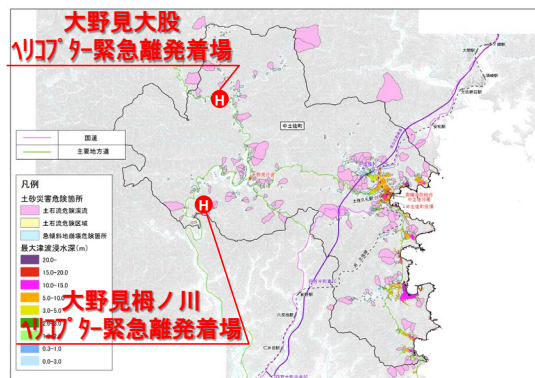


【事例】

○中土佐町の取組み

・中山間地域へのヘリコプター緊急離発着場の整備

- ・中土佐町は、山間部を有し、各集落を結ぶ道路沿い等において大雨や地震等による落石や法面崩壊等が生じた際には、孤立化する可能性のある地区が存在します。
- ・そのため、孤立した地域からの搬送や物資等の輸送手段等として、大野見地区にて2箇所のヘリポートを整備しています。



ヘリポート整備位置図

○八幡浜市の取組み

・市立八幡浜総合病院の改築によるヘリポートの整備

- ・市立八幡浜総合病院の改築では、災害に強い設計として、建物は免震・耐震構造で、機械室や電気室、電算室の6階への配置、屋上にヘリポートを設置しています。
- ・ヘリポートの整備等により、日常における救急搬送等をはじめ、災害時における備えとして、市民や周辺地域住民の安心・安全の向上へ寄与しています。



屋上ヘリポート

(出典：市立八幡浜総合病院新病院開院式パンフレット)



○四国地方整備局の取組み

・長安ロダムの堆積土砂を利用した防災拠点整備（平谷地区防災ヘリポート整備）

- ・那賀川上流に位置する那賀町は、広大な面積の中に集落が点在し、年間降水量 3,000mm を超える多雨地帯にあり、急峻な地形と脆弱な地質から、大雨や大地震時には大規模な山腹崩壊が想定され、集落が孤立するおそれがあります。災害発生時には、ヘリコプターによる情報収集、住民の救出・救助活動及び集落への食料・物資の搬入等が欠かせません。しかし、ほとんどの集落が山間部にあり、平地が非常に少ないため、緊急ヘリコプターが離発着できるヘリポート適地が少なく、ヘリポートの整備が求められていました。
- ・一方、長安ロダムでは、長安ロダム改造事業の一環として、貯水池上流の堆積土砂の除去を実施しています。
- ・そこで、長安ロダムの堆積土砂を活用し、平谷中学校跡地である平谷保育園の南側に、防災対応離着陸用のヘリポートを新設しました（平成 23 年 3 月完成）。

